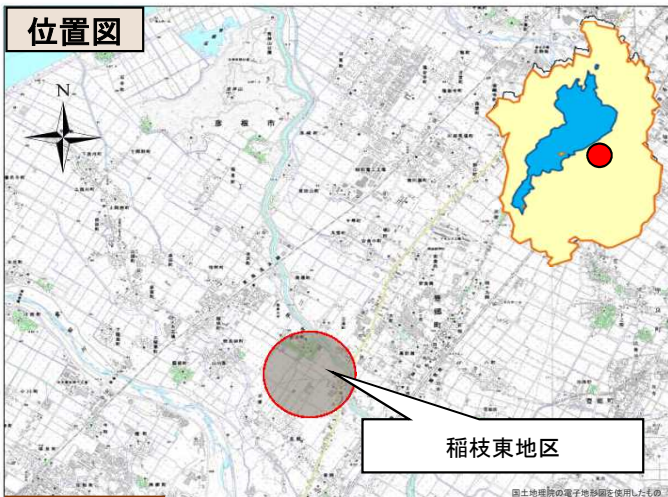


いなえひがし
経営体育成基盤整備事業 稲枝東 地区

位置図



稲枝東地区

事業目的

未整備で不整形な区画に加え、水路は全て土水路であることから、非効率で多大な維持管理労力が費やされているため、区画の大型化と農業用排水路の整備により、生産性が高い大規模経営が可能となる農村地域を実現する。

地区概要

所在地：彦根市・愛知郡愛荘町
 主要工事：区画整理 37.7 ha
 総事業費：821百万円
 (国:50%, 県:27.5%)
 工期：平成16年度～平成22年度

平面図

受益面積 42.2 ha
 (うち区画整理 37.7 ha)



整備後



効率的な営農が可能となった大区画ほ場

事業実施状況

小区画であった農地の区画形質が改善
 → 農作業の効率化
 排水路整備により排水不良な湿田が乾田化
 → 水稻以外の農作物の生産促進

事業の効果

農業経営の効率化

「一集落一農場」方式で農事組合法人ファーム肥田が設立(H23.12)され、大型機械の導入や農地集積が促進された。

現在、地域の大部分の農地が担い手(集落営農法人や農業法人)に集積され、効率的な農業経営が行われている。

経営形態の効率化

(事業前) 0.5ha未満の農家75戸「平均0.3haの零細規模」
 → (現在) 2団体 38.6ha

作付面積(小麦・大豆)

事業前(H15)	完了時(H23)	現在(H28)
5.4 ha	9.5 ha	13.0 ha

農地の利用集積状況(面積)

事業前(H15)	完了時(H23)	現在(H28)
9.2 ha	30.2 ha (集積率68%)	38.6 ha (集積率86.3%)

※2団体 1集落営農法人・1法人

集落営農法人の効率的な営農(出役による共同作業)



大型機械による田植え(作業時間の短縮)



大型機械による稲刈り(作業時間の短縮)

地域の方々の声

事業を契機に、「自分たちの農地は自分たちで守る」との思いから、農事組合法人が設立され、体制の整備ができた。

今後の課題

将来的に安定した農業経営を維持するための更なる取り組みが必要である。

- ・売れる農産物の生産(野菜類)
- ・造成施設の良好な維持管理と保全
- ・地酒「肥田城」を活用した町おこし

◆◆ 地酒「肥田城」で町おこし ◆◆

町おこしにつなげようと、農事組合法人ファーム肥田では収穫した「日本晴」を地域の酒造会社に持ち込み、地酒『肥田城』を醸造。
 町内への配布し、「地酒で迎える正月は格別」と好評、また、町内の酒店や地元スーパーでも販売。